新潟県

公民館月報 8

平成12年8月号　通巻第５７０号

表紙　「ネイチャーウォーク」
（小出町中央公民館）

資料提供「コシヒカリの郷」子ども
自然体験村IN六日町

視　　点　衆恩を集むる者
ひ ろ ば　松の林と文化
実践シリーズ　つがわ歴史教室
サークル交流　鶴心細字クラブ（村上市中央公民館）
　　オカリナれんれん（小出町北部公民館）
素顔拝見　米山竜太さん（長岡市）
　　飯岡真理子さん（吉田町）

第51回新潟県公民館大会開催

―新潟県公民館連合会創立50周年記念式典

〝たっぷり果樹王国の町〟聖籠町で「50周年を迎えた今、これからの公民館活動の在り方を考える」を大会テーマに

去る7月19日(水)、第51回新潟県公民館大会兼創立50周年記念式典が、果樹王国の町聖籠町町民会館を会場に、盛大に開催された。

阿賀北の地での久しぶりの開催であり、また、県公連創立50周年の節目の年であることもあり、県内各地から六百八十余名という多数の参加で、大盛況であった。

梅雨の最中でありながらも好天に恵まれ、主管二市北蒲公連の多大なご尽力により、終日大変充実した大会とすることができた。

今回の大会の特色は、50周年を記念して県知事表彰がなされ、また21世紀を展望して「公民館の未来をさぐる」と題して記念講演がなされたことである。

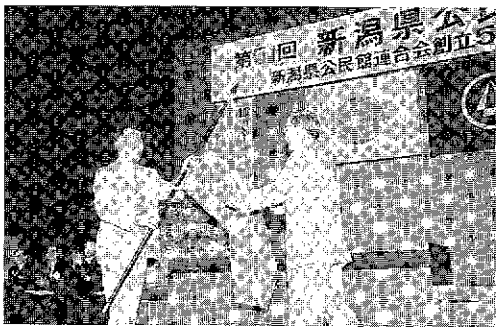
定刻より5分遅れの開式今井昭友会長による主催者あいさつ、永井成一教育次長、並びに小林一三県公振連会長の共催あいさつに続いて表彰式に移った。（被表彰者は下欄に掲載永年勤続者表彰七月号既報済み）

引き続いて来賓の祝辞に移り、新潟県副知事磯部春昭様並びに全国公民館連合会副会長松下誠様の祝辞、開催地聖籠町長渡邊廣吉様の歓迎の言葉、締めくくりは、緊急アピール（下欄参照）を提案決議して閉式となった。

その後、一時間三十分にわたり「21世紀を展望して学習する側から見た公民館活動」について上・中・下越地区の代表から実践事例を発表していただいたが、好評であった。

午後の記念講演は、「公民館の未来をさぐる」と題して方向づけしていただいた。

記念講演中の廣瀬隆人先生



50周年記念知事表彰被表彰者

◇個人の部

・江部　忍（前新潟市教育委員会副参事、前曽野木地区公民館長）

・渡邉誠一（元亀田町公民館参事・副館長）

◇団体の部

・中越地区公民館連絡協議会

代表、会長　加藤信興（長岡市中央公民館長）

今回の表彰は、県教育委員会のご理解、ご支援によって実現したもので、その目的は、50周年を契機に、公民館の振興に貢献し、顕著な功績のあった団体又は個人を表彰することにより今後の公民館事業の発展を図りもって県民の生涯学習の振興に資するものである、として行われたものである。

受賞された個人、団体の方々に心より祝意を表したい。

新潟県公民館連合会からの緊急アピール

新潟県公民館連合会が創立50周年を迎えた今日、公民館事業をとおして県内社会教育の推進に果たしてきた役割は、高く評価されている。

しかし、昨今、多発している青少年の暴力・凶悪事件・児童虐待等は、本県でも例外でなく発生し、県民に大きなショックと危機感を与えた。

そこで、一連のこのような事態に対し、私たち新潟県公民館連合会は、重大な社会問題として深刻に受け止め、次のような具体的な取組みの方策を提案し、実践することを県内各市町村の公民館に訴える。

記

◇各市町村公民館としての具体的な取組みの方策

1　青少年育成市町村民会議や関係機関・団体と緊密な連携をとりながら、地域ぐるみで青少年を育む運動に積極的に参画する。

2　家庭教育に関する講座、事業をあまねく展開し、家庭教育学習の拠点としての公民館の充実を図り、地域ぐるみで事業を展開する。

3　青少年を取り巻く社会環境浄化運動の推進を図るため、青少年育成新潟県民会議の提唱する「青少年の非行問題に取り組む強調月間」や「第三日曜日は家庭の日」の実施に全面協力する。

4　学校及びPTA、家庭・地域との連携を深め、非行防止のための広報・啓発を積極的に行なう。

5　「学校週五日制」については、小・中学校、PTA及び自治会とも連携を密にし、世代間交流による体験活動やふれあい事業を実施する。

◇新潟県公民館連合会としての取組み

1　第51回新潟県公民館大会での緊急アピール文の採択・決議

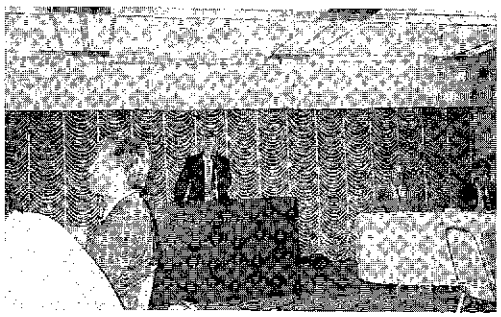
2　県内各報道機関への緊急アピール決議文の送付、報道依頼

3　新潟県公民館月報8月号紙上に緊急アピール決議文掲載・キャンペーン

平成12年7月19日　新潟県公民館連合会

新潟県公民館振興市町村長連盟

平成12年度定例総会終了



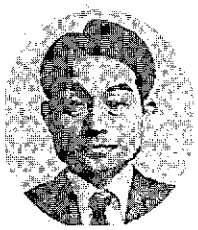
平成12年度新潟県公民館振興市町村長連盟の総会が、去る7月7日(金)新潟会館で開催され、新潟県教育次長永井成一様、そして本会の今井昭友会長を迎えて定刻どおり開会した。

議事は、平成11年度会務報告及び歳入歳出決算について承認され、次いで平成12年度重点目標並びに事業計画と歳入歳出予算案が提案され、原案どおり可決承認された。

今年度の特色は、創立50周年を迎えた県公連に対して、県大会共催費を五万円アップしたことである。また、本年四月一日から「地方分権推進法」が施行され、社教法関係では公運審の必置規制の廃止や委員規程の簡素化の改正が行われ、その対応を加味して重点目標を設定したこと等である。

最後に「公民館とコミュニティの連環」と題して、具体的な実践事例をとおして分かり易く発表がなされ、参加者にとって大きなお土産になった。

視点



衆思を集むる者

目黒悌一

下田村が生んだ漢学界の巨星―諸橋轍次博士は大漢和辞典を編纂され、その修訂を教え子に託して百歳の生涯を全うされた。

本年四月、語彙索引版に続いて補巻・第十五巻が刊行され、七十余年にわたる大事業にピリオドが打たれた。

米寿をも越えられた高弟・鎌田　正博士は下田の恩師の墓にぬかずき、このことを報告し感にむせばれた。

明治生まれの凛とした気骨をもった諸橋博士と大修館書店の初代鈴木一平社長は、次の宗儒の言葉を自らの戒めとし、生き方の指針とされた。

―衆思を集むる者は力を為し易く、己が智を専らにする者は功を為し難し。―

自分の才を過信することなく、謙虚に、志に共鳴してくれる人材の思いや力の結集を切望された博士の清廉な博士は書き残されたものの中で、「諸々のお援けに励まされ、そのご恩に報いなければならないという思いが、自分の志を強固に支えてくれた。」と述懐されている。

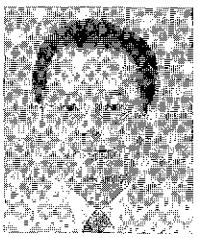
私どもがかかわっている生涯学習の目的や内容を皮相的な自分本意の利便の追求だけの次元から、衆思をどう集めどう止揚していったらよいのであろうか。

（諸橋轍次記念館
下田村中央公民館
館長）

ひろば

松の林と文化

紫雲寺町公民館運営審議会委員　半田　廣



私は小学校に勤めていますが、この紫雲寺町にお世話になって二年目を迎えます。人情や土地柄など、いいなと思うことはいくつもあるのですが、いつもほれぼれと眺めているのが、松の林です。

私の学校の周りにも、そして敷地の中にも松の林があります。林の間から子供たちの遊んでいる姿が見え隠れするのは、とても気持ちがなごむものです。

私の郷里の佐渡でも、松の林が点在しています。しかし、マツクイムシの害を受けて大方が枯れ木になっています。松が赤茶けた無惨な姿をさらしているのを見るのは、情けないものです。ですから、この町を初めて訪れたとき、松の林が青々と広がっているのを見てとてもうれしかったのを覚えています。町でも、莫大なお金と労力をかけて害虫退治を行い、また保全対策を練っています。町単独で解決できる問題ではありませんが、このような努力を続けていってほしいと願っています。

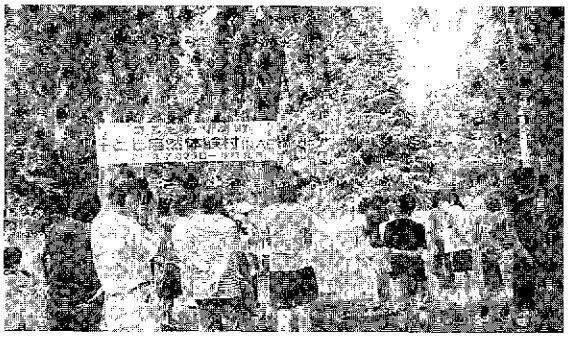
さて、学校を訪れた人たちは、窓から広がる周りの景色をながめて、たいていの方がゆったりとした、心落ち着く光景だと言います。自然環境や風土が、そこに住む人の心の在りように影響を与え、一つの気質を形づくる面はあると思います。

公民館活動は、地域の文化を創造していく機会と場を提供するものだと思いますが、このように自然環境が生み出す文化もあるのではないでしょうか。

また、学校の周りに広がる松の林は、戦時中、軍用資材として切り出され、荒れ地になっていた所もあったそうです。それを戦後になって、学区の方々が植林し、育て上げたのだそうです。松の林には、そんな歴史もあるのです。

いつか、樹医さんや学区の昔の様子を知る方を招いて、松の林を守る話を子供たちに聞かせたいなと思っています。

も自然体験村（概要）自然体験村実行委員会



開村式

一、主な活動記録

◇7月25日(日)　一日目

《開村式》

青空の広がったいい天気になった。いよいよ子ども達がやってくる。

1時45分頃には全員集合した。子ども達の様子を見ていると、「15日間頑張れるだろうか？」「友達ができるかな？」と不安そうな表情をしていたり、「これからどんな体験ができるのか楽しみ！」「早く始まらないかな」という期待一杯という表情をしている。

○役割分担　名札作り

○歓迎パーティ

◇7月27日(火)　三日目

《農業体験―田の雑草取り》

この日も5時半頃から起き始める。子ども達は皆元気だ。八海山地区へ移動、二つに分宿。

午前中は、コシヒカリの田の雑草取りを行った。裸足になって田に入ると、ぬかるんだ感触に慣れるまで大騒ぎ。作業を始めて少しすると手付きもよくなるが、ぬかるんだ足下と、前かがみの姿勢での作業はかなりきつく、農家の方の大変さがよく分かった様子。

《農業体験―スイカの収穫》

午後はスイカの収穫体験。畑にスイカがなっているのを初めて見る子ども達も多く、驚いた様子だった。スイカを落とすと大変なことになるので、子ども達のどの顔も真剣そのもの。百個近いスイカを皆で運んだ。スイカの仕分け作業を見学した後、楽しみにしていた食べ放題。皮の白い部分が見えるまできれいに食べた。

◇7月28日(水)　四日目

《ソバ打ち体験》

ソバは乾燥に弱いため、閉め切った部屋の中で行う。じっとしていても汗がポタポタ落ちる。作り方の実演を見た後、作業に取りかかる。そば粉と水を混ぜ合わせる作業は力が要るということで、中学生5名が代表でこねる。次に班毎に、かたまりを何度も何度もこねる。おいしいソバにするためにはここでしっかりこねることと、汗の隠し味を入れることがポイントと聞き、作業にも力が入る。後は、同じ厚みにするために生地を伸ばす。これがなかなか難しい。力を入れ過ぎると穴があいたり、裂けたりしてしまう。最後に、ソバ用の大きな包丁で丁寧に切る。初めての体験に、最初はどの子も肩に力が入っている様子だったが、慣れてくるといい手付きになっていた。"職人になるにはまだ修業が必要だが、これだけできれば立派"と、先生達からほめてもらい、嬉しそうだった。ゆで上がったソバを食べる。「おいしい！」「ん、～かたい」と反応は様々だったが、自分達の作ったソバに満足そうだった。

《竹細工》

準備してある竹が少なかったため、各班代表一名が竹切りに出かける。その他の子ども達で食器作りを開始。翌日のバーベキューで使うためのものだ。リーダーが小さく切り、子ども達がナタで竹を割ったり、ナイフで削ったりする。作っているうちに竹の特徴を理解し、手際よくできるようになった。リーダーの分も子ども達が作ってくれた。味のあるおしゃれな食器ができ上がった。でき上がると自分の名前を彫ったり、余った竹でボーリングをするなど自分達で工夫し、遊びを考えたりする場面が多く見られた。やはり子ども達の創造力はすごい。

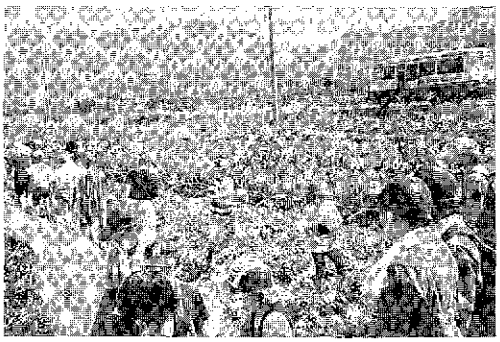
《ほたる見学》

夕食後、思いがけず地元の子ども達の案内で蛍を見に行くというスペシャルプログラムが入った。リーダーは同行するだけで、子ども達に一切任せる。街灯のない真暗な山道に入って行く。女の子は、手をつなぎながら恐る恐る進んで行く。中には、不安と恐怖で「早く帰ろうよ」と泣き出す子どももいた。橋のある場所に到着すると、「わぁーきれい！」「いっぱいいるよ」と、真暗闇に飛び交う蛍に感激していた。

◇7月30日(金)　六日目

《森林体験》

午前中は森林体験で、草木が生い茂って歩きにくくなっている森の道をかき分けながら歩いて行き、のこぎり、鎌で歩き易いように約四百米の道をつけた。鎌などが、危険な道具であるということがなかなか理解できないようで、いくら説明しても近くに人がいるのに振り回したり、興味があるのか作業して



スイカの収穫

資料提供
「コシヒカリの郷」子ど IN六日町事業報告 「コシヒカリの郷」子ども

さよならパーティ

いる人に近づき過ぎたりして、安全に作業できるまで時間がかかった。草によるかぶれを心配していたが、そんなになかった。

《創作活動》

リース作りをする班と、川遊びをする班に分かれて行動した。子ども達も大分疲れている様子だったが、いろいろなものに興味を持ち始め、積極的になっている。つるでリースを作り、その後に花などを絡ませようと思っていたところ、子ども達の方から、花のある所まで連れて行ってほしいと、先に頼まれるほどであった。

◇8月7日(土)　十四日目

《農業体験―ジャガイモ・トウモロコシ・トマトの収穫、ハーブ園見学》

子ども達は、「最後に、何で農業体験やるの？」などと文句を言いながら大月農園に移動する。農園の方の最初のお話の時は、気分も乗らず疲れもたまっているのがはっきり分かる様子だった。しかし、体験が始まるとなぜか皆の様子が変り、積極的になってきて、トマトは美味しそうに取って食べているし、トウモロコシも一人三本までと決めていたら、あっという間に取り終えてしまった。しかし、ジャガイモ掘りの時だけ、ちょっと動きが鈍り、掘り出してあげると喜んで拾うのだが、なかなか自分で掘り出そうとしない子が多く見受けられた。

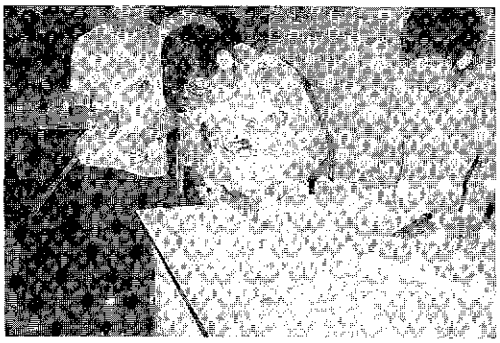
さすがに、十四日目で、子ども達は整列する時のスピードと、話を聞く姿勢になるまでの時間がかなり早くなっていた。

《わら細工》

日本一のコシヒカリのわらを使って一輪挿し作りに挑戦。各自にわらの束と竹、紐が渡された。まず、竹の周りにわらを一本ずつ丁寧に張り付けていくが、子ども達の目は真剣で話し声がなくなる。わらの節を利用していろんな模様の物ができた。次に、きれいに切り揃えて紐で周りを縛り、上の部分は持ち手をつけたり、傘のようにしたりして工夫する。材料は同じだが、34人34様のすばらしい一輪挿しが完成した。

《さよならパーティ》

最後の夜は、豪華な夕食とジュース、スナック菓子を用意してのさよならパーティ。顔に油性ペンで落書きをし、初めから異常な盛り上がりを見せた。食事が一段落した頃を見計らって、班毎に具体的にどのプログラムが楽しかったか、何がつまらなかったかなど、ストレートな感想を述べてもらった。ウェルカムパーティの時とは全く違う雰囲気で、発表者は大きな声で、思ったこと、感じたことをはっきりと発表し、聞く側は静かに耳を傾けていた。その後のレクリエーションも、大いに盛り上がり、メリハリのあるすばらしいパーティだった。


ソバ打ち体験

二、子ども自然体験村を終えて

子ども達がたくましく見えた。本当に良く頑張った。今回のプログラムを終えて一番強く感じたのは、子ども達に、こういう頑張れる場所と時間があればいろんなことにチャレンジし、やり遂げる力を持っているということだ。とかく今の子ども達は、と言われがちだが、決してそうではなかった。

長期のプログラムは短期と違って、子ども達自信が十五日間頑張ったという達成感・自信を強く持ったのではなかろうか。また、友達の思わぬ面を知り班の連帯感が生まれたり、異年齢の友達とのつきあいの中で、人への思いやりも深まったように感じた。記憶に残る場面がいくつもある。できたのが嬉しくてしょうがない、そんな素直な笑顔が沢山浮かぶ。

◇次回への準備等

・リーダーは子ども達と同じ部屋で生活し、部屋担当リーダーを決めるとよい。そのためには各宿舎の部屋割り等を事前に知っておく。

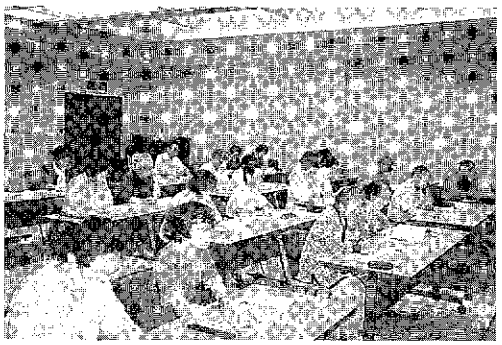
・参加者、保護者への事前案内では、当然のことだが持ち物全てに記名するよう依頼する。

（問合せは、六日町温泉国際ユースホステル　TEL　〇二五七―七二―二八四二）

実践記録シリーズ(46)

つがわ歴史教室

津川町教育委員会
津川町公民館



○はじめに

平成十年度に、「町史講座」を開講した。「津川町の遺跡」から「福島県から新潟県へ管轄替えになる明治時代」までを通史の型で、六月から十二月まで十回に分けて行った。その受講者から、次年度も、ぜひ継続して歴史教室を開催してほしいとの要望が多くあった。

そこで、平成十一年度は、講師との打合せを行い、古文書や資料が残っている問題のいくつかを取り上げて、事例史として「つがわ歴史教室」を八回に分けて実施した。

○実施の概要

・計画立案と町民への案内

四月、講師（町文化財審議委員と郷土史研究家の四人）と主題や内容、日程等について協議し、計画をまとめる。

六月、広報「町だより　つがわ」とチラシに、講座一覧表と参加申込みを掲載、配布する。

各回ごとに、広報無線でも案内する。

・開催時間と募集人員

開催時間は、毎回、午後七時から八時三十分までの一時間三十分とし、公民館の会場の関係から四十人を限度として募集した。

その結果、申込みをした人数は五十三人となり、中には、新津市や上川村からの参加もあった。（各回ごとの参加者は、大体三十人前後であった。）

・参加者層

前年度の「町史講座」の継続参加者が多かった。

女性が五十八%を占めていた。また、六十歳以上の高齢者は五十六%と多かった。

一方、三十歳代、四十歳代の男性や二十歳代の女性の参加も見られ、若い世代の町史理解への意欲もうかがわれた。

参加募集時に、対象を初心者向けとして案内したが、中には高校の歴史の教諭や、郷土史研究を相当進めている人と、ハイレベルな人の参加もあり、対象のむずかしさも感じられた。

各講師とも、平均して二十ページを越える資料を準備され、地図や統計図表を用い、古文書はわかりやすい読み下し文にするなどよく配慮されていた。

参加者以外の人からのテキスト配布の依頼などもあり好評であった。

内容については、前年度の町史講座では難解な面もあったという反省を講師に伝え、平易さには意を用いて頂いた。受講者から、わかりやすかったという意見が多かった。

公民館講座には、「ふるさと発見教室」という、巡検、実習、観察を主体としたものが平成七年度から継続し、毎年七回ずつ実施されている。その内容は、植物観察（麒麟山）や石碑の採拓等を除くと、歴史教室と関係するものが多く、相補関係にあると言ってよい。

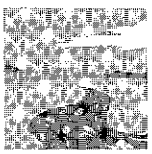
○おわりに

「つがわ歴史教室」を終わって受講者からは、昨年と同様に津川の歴史はもっと知りたいことが多いので、次年度も継続してほしいという要望が多く出された。まだまだ知らない津川の昔があるという。

確かに、産業（農林業、鉱業など）や交通などの問題は、新しい資料をさぐりながら進める余地があることの一つである。

どこの市町村でも言われる問題であるが、「つがわ歴史教室」や、「ふるさと発見教室」の参加者が固定化する傾向が見られることである。

若年層や壮年層の参加率を高める工夫は、試行錯誤しながらでも取り組まなければならない問題である。時間帯や時期、集まる形態や学習方法など希望に添う工夫が必要である。



平成11年度学習計画

月日・曜	講座のテーマ	講　師
7月16日㈮	会津街道の変遷	杉崎　巌先生
8月6日㈮	津川町の大火	徳永　次一先生
8月20日㈮	「嘉永の分限帳（ぶげんちょう）」から見た津川町	徳永　次一先生
9月3日㈮	「都（スベ）テ萬覚書（ヨロズオボエガキ）から見た津川町のようす	宮川　俳先生
9月17日㈮	津川の遺跡と出土品	杉崎　巌先生
10月1日㈮	津川の町名　～その由来と変遷	宮川　俳先生
10月15日㈮	津川発祥の地・津川沢	杉崎　巌先生
10月22日㈮	津川町の大水と大雪	五十嵐義昭先生

サークル交流

急がず休まず ステップ・アップ

鶴心細字クラブ

この四月で結成二年目を迎えた会員二十名程の「実用書道」のサークルです。

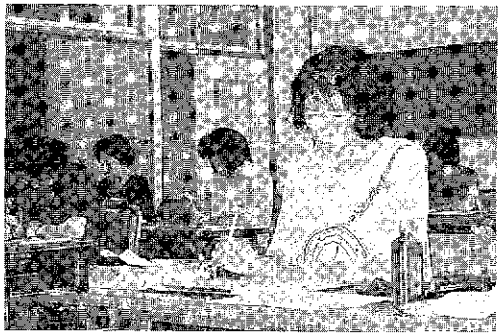
冠婚葬祭に備えて、また手紙やはがきの書き方など日々の生活において最も必要性が高く、それだけに、人の目に触れる機会の多い書を躊躇することなく自ら筆を取って書けたらということが願いでした。

毎回ご指導下さる先生の熱のこもった講義と含蓄のあるお話は、書の上達振りは個々の努力によるところもありますが、心も培われているように感ずるのは、テンポは遅くても休まず歩み続けて行こうという会に集うみんなの意欲にもつながっているからだと思います。

秋には〝公民館まつり〟もあり、デビューするのには絶好のチャンス。

私達も作品展を開いて多くの方に見て頂ければ自信もつき、更なるステップ・アップにもなるのではないかと考えております。

（村上市鶴心細字クラブ　服部　博子　記）



オカリナの素朴な音色に魅せられて

オカリナれんれん

平成8年6月に、小出町北部公民館「いきいきセミナーのオカリナ教室」に参加しました。

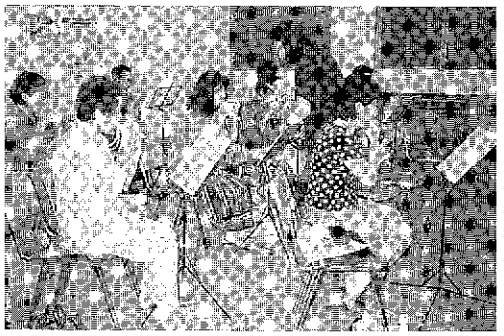
10回の講座が終って、何とか簡単な曲が吹けるようになり、優しく温かみのある素朴な音色にすっかり、オカリナの虜になってしまいました。希望者でサークルを発足し、北部公民館で月2回、急がず慌てず、会員12名で、楽しく練習に励んでいます。

毎年、小出郷文化会館で開催される「音楽の夕べ」での演奏を中心に、新曲に挑戦し、練習しています。

各地区公民館の芸能祭に参加したり、ボランティアで入広瀬村の寿和ホーム等の特養老人ホーム誕生日会に行きます。唱歌や童謡等、お年寄りが一緒に手拍子をとり、懐かしそうに唄っている姿には感動しました。

同じ先生に師事するサークルの交歓会を始めて4回目となり、今年は大和町で山菜の手料理で舌鼓、演奏を披露し合い、楽しく交流を深め合いました。

（オカリナれんれん　井口　洋子　記）



素顔拝見

長岡市生涯学習・体育課

主事　米山竜太　さん

新規採用で中央公民館に配属され二年目の竜太君は、やぎ座A型の24歳独身♡です。

市内30もの地区館管理を一手に担う彼はとっても働き者で、地区館からの問合せに次々応じ「わっかりました!!」と備品整備から草取りまで、時にはトイレ修理だってしちゃいます。課内においても勢いは止まらず、山の様な執行伺を呼吸もせずに一気に片づけます。そして午後5時になると給湯室で皆の茶碗を洗いながら、一人暮しの彼は今日の献立を考えます。

そんな、婿に欲しい男No.1の彼がこよなく愛するギターの腕は超一流で、4本のギターを毎晩日替りで演奏し、仲間とのライヴ活動にも熱心で、一人夜の街を流すこともあるそうです。もちろん職場の宴会でも「米ちゃーん!」と大人気です。

公民館大ホールでのライヴをいつか夢見る竜太君でした。

（長岡市生涯学習・体育課　月黒　麻子　記）

吉田町公民館

主事　飯岡真理子　さん

町の職員に採用され十四年目のベテラン職員であります。

今年四月の異動で図書館から公民館へまいりました。まだ月数も少ないのですが、さすがベテラン職員でありまして、公民館の講座加入申込の受付から始まり、教室で使用する材料の注文や配達になった材料の確認と保管、頼まれた各教室の会計の手伝い、中途加入者へのアドバイスや、講師への紹介などいつも明るい笑顔で来訪者に対応している公民館のアイドルまんであります。

趣味は読書と眠ることだそうです。なにしろ立派な人格者であります。

これからは、地域住民の学習活動の場として公民館の施設を積極的に活用していただくためにも、親切な良きアドバイザーとしてこれからの活躍が期待され、彼女はますます忙しくなりそうです。ただ、決められた休日がなく苦慮している今日です。

（吉田町公民館長　近藤　富次　記）

ストーリー

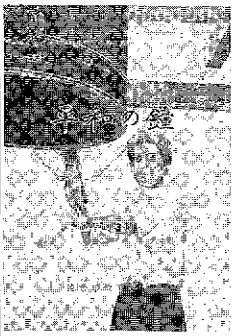
恵贈資料紹介

佐倉市平和学習資料
平和の鐘（中学生用）

佐倉市教育委員会

佐倉市では　平成七年八月十五日に「佐倉市平和行政の基本条例」を制定し、「平和都市宣言」を行い、佐倉市に住む人々が過去の戦争の歴史を忘れてしまうことなく、次の世代に語り継ぎながら、世界の平和に向けてメッセージ発信し続けていこうという意思を示したものといわれます。

ここで紹介いたします資料は中学生用として作成されたもので、二部構成となっております。



前半部は、佐倉市在住の方の戦争体験記録文で、四名の方の貴重な生々しい体験が掲載されております。

後半部は、戦時中の残された貴重な資料が順序良く紹介されております。

八月十五日を迎えた今日、私どもも今一度「平和」について考えてみたいものです。

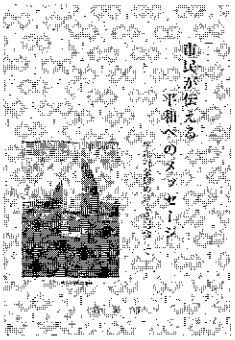
恵贈資料紹介

市民が伝える平和へのメッセージ
―平和祈念碑の建立を記念して―

新潟市

平成10年8月10日、水戸教公園跡地の小高い山の上に平和祈念碑が建立され、その式典に参加した旨をしたためた便りと共に、「市民が伝える平和へのメッセージ」の冊子が、昔の山仲間のSさんから送られて参りました。

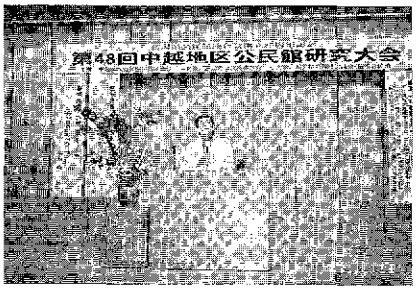
巻頭の「記念誌発刊によせて」で長谷川市長さんは―ここに改めて戦争の犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、世界の平和を願い、水戸教公園に平和祈念碑を建立し、併せて市民の皆様方からお寄せいただいた戦争の体験談や平和へのメッセージを永く後世に伝えるために記念誌を刊行した―と記述されておられます。



体験談を寄せられた方々の中に六～七名の知人名を知り、改めて平和への願いを強く感じた次第です。後半部には、資料も沢山掲載されております。

また、新潟市での戦災を知る貴重な資料でもあります。

平成12年度 第48回中越地区公民館研究大会開催



越田幸洋氏の講演

去る6月28日㈬　二八〇名余の参加を得て、刈羽村生涯学習センター「ラピカ」で開催された。

研究会の主題は〝学社融合への道しるべ〟と設定し、講演は、学社融合の先進地鹿沼市教委の越田幸洋様をお迎えし、実践事例をとおして方向性を示していただいた。その後、川口小、西山町から中越管内での実践事例発表がなされた。

あとがき

第51回県大会兼創立50周年記念式典等も、大盛会裡に終了させていただきました。大会関係者も含めて六百八十余名となり大会資料も増刷させていただきました。実践事例発表、記念講演も大変内容が充実していた、との声が寄せられております。ここに吉田敏行実行委員長さんはじめ、実行委員の皆々様の献身的なご努力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（鈴木　記）

表紙解説
「ネイチャーウォーク」

山椒魚の卵をスケッチする参加者たち。当日は天候にも恵まれ、森林浴を楽しめ、大好評だった。

（小出町中央公民館）

発行所　新潟県公民館連合会
〒951-8053
【新潟市川端町2―9・県林業会館内】
【TEL・FAX（025）224―6073】
発行人　会長　今井昭友
編集人　事務局長　鈴木友夫
【定価1部150円〒共・年極1,800円】